

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2375700610
法人名	有限会社 福田サービス
事業所名	内海ホーム 気まま
訪問調査日	平成 20 年 12 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2375700610
法人名	有限会社 福田サービス
事業所名	内海ホーム 気まま
所在地	〒470-3321 愛知県知多郡南知多町大字内海字城下64-1 (電話)0569-62-3760

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地N203号室		
訪問調査日	平成20年12月25日	評価確定日	平成21年1月30日

【情報提供票より】(20年12月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年7月14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4人 非常勤 6人 常勤換算 5, 8人

(2)建物概要

建物構造	木造2階建 造り	
	2階建ての	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日当たり 1,100円			

(4)利用者の概要(11月28日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.5歳	最低	62歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	トータルサポートクリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「内海ホーム気まま」は、名鉄内海駅から徒歩10分ほどの、住宅地の一角にある2階建てのグループホームである。代表者が、子供の頃から身近で介護を見ていたのが動機となり、8年前に自宅を改修して介護事業を始めた。代表者の思いが、「やすらぎここにあり、気ままな暮らし」を作りあげた。利用者・家族が一番心配な医療面については、協力医による隔週ごとの往診、週1回の看護師の訪問看護と、24時間緊急体制で対応できることで、最後までホームで暮らすことができる。田園風景のある良い環境で、利用者一人ひとりを大切にして、幸せに暮らせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題であった、短期入所(ショートステイ)と高齢者住宅を開始した。また、ホームページを開設して、ホームの内容を地域に広く発信した。災害時に備える課題では、乾パンの缶詰め等を用意して改善した。介護計画の課題では、利用者、家族、職員から聞いてチームで作成して改善された。またレクリエーションとして、月1回は利用者と職員が一緒にお好み焼きやホットケーキを作って楽しんでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に、昨年の外部評価の結果を渡して、改めて見直しをしてもらい、書き加えてもらった。また、研修材料として自己・外部評価票を使い、介護の質の向上に取り組んだ。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進委員会は、会議が義務づけられてから、毎回欠かさず、年6回開催している。町役場の職員は協力的である。会議の内容は、「ホームの近況報告」に始まり、最近の話題では「ホームの畑でイモ掘りの様子」、役場職員からは、「21年度からの介護保険制度について」、「介護報酬や介護保険料について」、「南知多近辺の高齢者の現状」等の説明を受けた。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪する家族には、利用者の様子を伝え、来れない家族には、隔週発行の「気ままと気ら新聞」に利用者の様子を添えて送付している。家族の意見、苦情、要望等は、代表者や職員との信頼関係ができているので、来所の折に口頭で伝えて貰っている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、敬老会に利用者が出席している。海開き前の海岸清掃に職員と共に参加したり、小学校の運動会や中学校文化祭などの見学をしている。ホームでのバーベキューは、家族や地域の人が参加して、交流を持つようにしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やすらぎここにあり、気ままな暮らしを全力でお手伝いさせていただきます。」は、代表者の経験から学んだ理念である。地域のなかで「利用者一人ひとりを必ず幸せにします。」「ホームで最後まで暮らしてほしい」という思いを、職員全員が常に念頭におき、日々の介護にあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、2階リビングに掲示している。ミーティングなどで話し合い、共有する機会を持っている。職員の入社時に、代表者が説明している。また、利用者の「わがまま」を受け入れるよう伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、毎年海開き前の海岸清掃に、職員と共に参加している。敬老会に出席する利用者もいる。花火大会や小学校の運動会、文化祭、祭りの見物にも行っている。	○	地域密着型サービスとしての地域との関わりが求められており、今後地区の老人会への加入を検討され、ホーム催しものへの参加等を呼びかけられたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果をもとに、自己評価票を職員全員に配布して、管理者がまとめた。昨年指摘された、ホーム内の臭いについては、町内全体の下水の臭いである事が判明し、換気を頻繁にして、臭いの排除に留意している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、地域の区長、身体障害福祉会役員、役場担当者、管理者、職員が参加して、隔月に、年6回開催している。会議の内容は、近況報告、口腔ケア、避難訓練などである。また、地区の区長から地域の情報をもらい、運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当者の隔月1回来訪時に、運営推進会議を開催している。また、運営推進会議以外の機会でも、地域包括センターのケア会議(月1回)や研修に参加して、情報収集や同業者との交流を行い、入居希望者の情報なども得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	隔月に発行する「気ままと気ららの新聞」に、ホーム内の様子や写真を載せ、家族に渡している。来訪できない家族には、ホーム新聞や金銭収支報告書等を郵送している。日用品などは、立て替え払いをして、領収書を渡している。さらに、ホームページを開設したことで、遠方の親族にも情報提供が可能になった。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員全員は、家族からの意見、不満、苦情等を業務日誌に記入して、代表者、管理者が対応している。職員は、家族が気軽に意見が言えるように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者の長年の経験から、職員の異動については、利用者にあえて伝えない方が良いと考えている。やむを得ず交代する場合は、引き継ぎ期間を1か月とり、利用者のダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、採用時研修(3か月)や、年1回以上の外部研修に参加している。研修後は報告をして、職員に伝えている。研修は勤務扱いで、費用、交通費とも事業所が負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム連絡協議会に加盟している。近隣にある4つのグループホームとの交流までには、至っていない。他のグループホームからの見学者は多い。また、同一法人内の交流は、月1回行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、代表者と管理者が病院や自宅へ出向いて、家族を交えて話を聞いている。代表者は「お試し」と言う言葉が嫌いなので、「体験入居」は行っていない。今まで馴染めなかった利用者も1か月で安定し、入居継続している。この様な事が地域の人たちに伝わり、入居希望者が増えた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、趣味や好きな事をして職員と一緒に過ごしている。近所を散歩したり、テレビを観たりコミュニケーションを大切に、見守り支援している。利用者から学ぶ事も多くあり、尊敬の気持ちを忘れないように、日々の生活を共に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のできる利用者は、日頃の生活から本人の思いや希望を把握できている。言葉で表現できない利用者には、表情や目、素振りなどで把握するようにしている。利用者の思いなどを記録に残し、職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者、家族の意向を最重視して、職員間で話し合い、医師の意見を反映させている。また、業務日誌や日報から読みとり、利用者の変化に応じてケアマネージャーが作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、1か月に1回、ケアマネージャーと職員が行っている。また、業務日誌、個人記録をもとにモニタリングを行い、6か月に1回、家族に報告してサインをもらっている。急変時は、その都度介護計画を見直し、家族に伝えている。	○	6か月の介護計画の見直し時まで、留意すべき事項等を介護計画書に書き込むことで、一人ひとりの状況を介護計画に盛り込むように努めている。今後、例として、見直したところをチェックし、職員全員がサインをして、介護計画書を作り変えながら情報の共有をすることも検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年検討中であつた、短期入所を始めた。デイサービス、ヘルパー派遣、ホームヘルパー養成講座、介護タクシー、高齢者住宅、地域住民への配食弁当など、事業所としての多機能性を追求し、支援している。24時間オンコール体制も可能であり、夜間往診も行っている。理美容・行政への書類申請は、無料で行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が、内科は隔週1回、眼科は月1回往診している。また、整形外科、精神科の医師もいるので、対応可能である。看護師による週1回の訪問看護を行っている。透析中の利用者には、透析病院が送迎を行っている。入居前のかかりつけ医は、家族が対応しているが、家族の都合が悪い時は、職員が送迎している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の要望があれば、最後の看取りまでを支援している。医師や家族、代表者が話し合いながら、方針を立て、職員全員で情報を共有している。ホームとして、看取りの経験もあり、今までの退去者の殆どは、ホームで最後を迎えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録などは事務所に保管して、利用者・家族の目に触れないようにしている。業務日誌、個人記録の収納には、医療用のファイルを使い、個人情報がない配慮をしている。利用者のトイレや失禁、衣類の着脱時の言葉かけには、利用者の尊厳を傷つけないように気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のリズム、体調、気分に合わせて、希望に添った支援をしている。塗り絵、風船バレー、輪投げ、歌(童謡、カラオケ)を職員と歌ったり、散歩に行ったりして、その人が過ごしたいように、「本人のわがままを通させてあげる」支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的メニューの良し悪しや好き嫌いのアンケートを実施して、利用者の希望を取り入れている。調理は関連ホーム(GH気らら)で行い、当ホームでは盛り付けを行っている。食事後の食器拭きなどを職員と共に行ったり、月に2回、お好み焼きやホットケーキなどを作っている。食事中に利用者同士の会話や支え合いが見られ、職員が場を盛り上げる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は午前中が多いが、午前中入浴しない人は、午後入浴している。日毎に入浴剤を変えて、ゆったりと入浴を楽しむ工夫をしている。毎日入浴したい人には、シフトを調整して対応している。入浴拒否の人には、夜パジャマに着替える時に清拭したり、言葉かけの工夫をして入浴してもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的には、食器を拭いたり、洗濯物をたたんだり、洗濯物を干すのが日課の人もいる。利用者は、ホーム横の畑での収穫を楽しみにしていたり、毎年みかん狩りやイチゴ狩りに行っている。気候の良い日には、海まで散歩に行き、気分転換をはかっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や気候の良い時は、近くの公園や海・喫茶店へ散歩に行っている。車椅子の利用者にも、天候と体調に合わせて外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、昼間鍵かけはしないが、夜間は、防犯・安全のため施錠している。鍵かけをしないことで、「利用者が、いつでも外へ出ることができる安心感」が大切であることを、代表者は、職員に話している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、消防署の連携で毎年2回実施している。消火器で消す訓練と、119番に連絡して、非常通報装置を鳴らす訓練を行った。利用者には事前に伝えてあり、動揺はなかった。災害に備えて缶詰の乾パン、お菓子などを備蓄している。	○	ホームが2階で、階段が狭いこともあり、外へ避難する訓練が必要である。また、車椅子の利用者を、外に連れ出す方法など、関係協力機関と協議されたい。非常食の備蓄はあるが、飲料水や簡易トイレなどの備えを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が、1日に必要な栄養の摂取量・バランスを考えて献立を決め、記録している。水分補給は、湯のみ茶碗の容量を職員が把握して、摂取量を把握している。食事摂取量は、個別記録に記入している。水分は、こまめに飲んでもらうように工夫している。	○	栄養、排泄の記録はあるが、水分量の細かな記述はしていない。健康管理時の情報把握に役立つと考えられるため、1日の水分補給量の記録を残し、職員のチェック・共有を望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には、季節感を出すように、その季節に合わせた工夫（玄関には大きな門松、居間の壁にはクリスマス服を着た利用者の写真や、手作りのクリスマスツリーの貼り絵等）を行っている。くつろげるソファとテレビが置かれ、居室、風呂場、トイレは、目印となる手作りの物が工夫されている。風呂場からトイレへドア1つで移動できる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたテレビや冷蔵庫、ホットカーペット、座卓、椅子、整理タンス、衣服、掛け時計、カレンダー、花、日本人形、写真などが持ち込まれている。居室は、大きな窓にすることで、明るく居心地の良い工夫がされている。		